

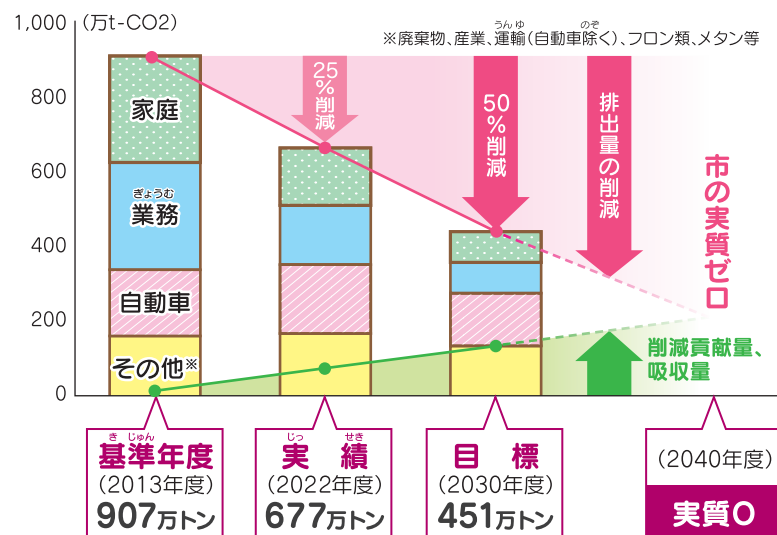
脱炭素社会の実現に向けた福岡市の目標

（日本の目標）

日本では、2020年に世界に向けて、「脱炭素社会の実現に向け、2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロにする」と表明（カーボンニュートラル宣言）し、**2030年度**には温室効果ガスを2013年度と比べ**46%削減**する目標を決めました。

（福岡市の目標）

福岡市は、世界や日本がめざすカーボンニュートラルに積極的に取り組むため、「**2040年度 温室効果ガス排出量実質ゼロ**」に向けたチャレンジ」を表明し、**2030年度**の温室効果ガス削減目標を**国の46%より高い50%**とし、さまざまな取り組みを進めています。



排出量とは

省エネや再生可能エネルギーを活用しても発生してしまう温室効果ガスの量

削減貢献量、吸収量とは

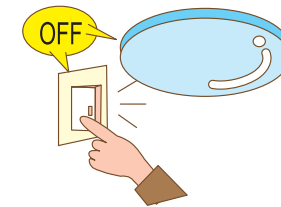
エシカル消費や海外での廃棄物埋立技術「福岡方式」などによって、市域外で削減できたと推定される温室効果ガスの量、森林や海洋などによる吸収量

福岡市の取組み

ECOチャレンジ応援事業

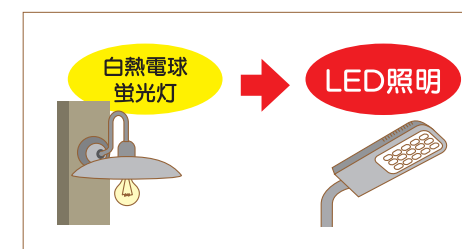
家庭で電気やガスを節約すること、再生可能エネルギー電気の購入、環境イベントへ参加して環境について学ぶことなどに取り組んだ場合に、交通系ICカードで使えるポイントを獲得できる事業です。

みんなの省エネの取組みを応援します。



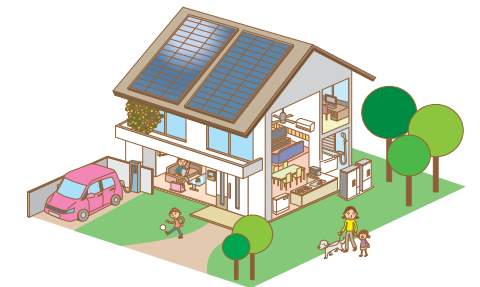
LED照明の導入

道路照明や地下鉄の駅の照明などをLED照明に交換しています。白熱電球や蛍光灯をLED照明に交換することは、消費電力を抑えて二酸化炭素排出量を減らすことにつながります。



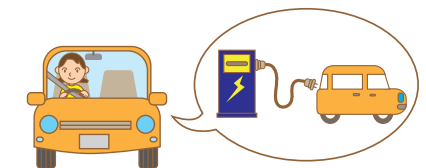
太陽光パネル等の設置費用を助成

太陽光パネルや電気を貯めることができる「蓄電池」、ガスを使って電気をつくり、発生した熱でお湯をわかすことができる「燃料電池」等の設備を設置する際の費用の一部を助成しています。



電気自動車等の購入費用等を助成

電気自動車や燃料電池自動車等を購入する際の費用や、車に充電を行うための設備を設置する際の費用の一部を助成しています。



電気自動車・燃料電池自動車

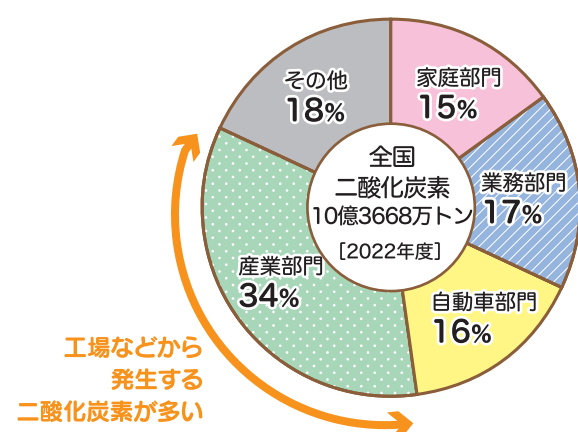
電気自動車と燃料電池自動車（※）は、どちらも電気で走るため、騒音も小さく、二酸化炭素や排気ガスを出さない環境にやさしい車です。（※水素と酸素の化学反応によって発電させて走ります。）

福岡市における二酸化炭素排出量の特徴

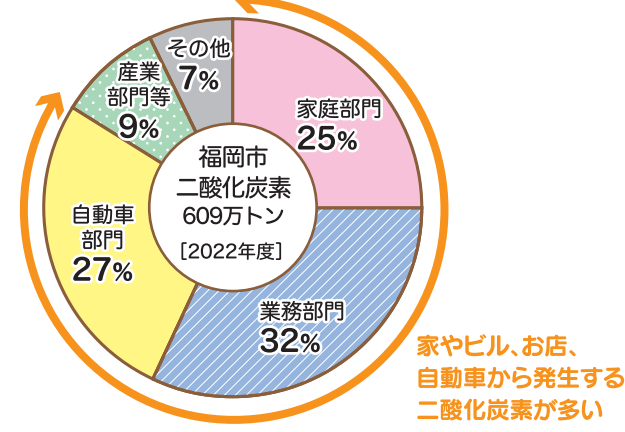
日本全体の二酸化炭素排出量は、工場など産業部門からの排出が最も多いですが、福岡市は、商業やサービス業が多いため、家やビル、お店、自動車から発生する二酸化炭素で市内の

約84%を占めるという特徴があり、脱炭素社会実現に向けては、市民一人ひとりの行動がとても重要です。

日本の二酸化炭素排出量（2022年度）



福岡市の二酸化炭素排出量（2022年度）



※四捨五入の関係のため、割合の合計が100%を超える

福岡市水素リーダー都市プロジェクト NEW

福岡市では、下水汚泥を処理する過程で発生するバイオガスから水素をつくり供給する水素ステーションを運営しているほか、ごみ収集車などの燃料電池（FC）車両の導入や実証を進めています。

さらに、九州大学箱崎キャンパス跡地において、水素供給パイプラインの整備や、水素ステーションの整備等に向けた検討を進めています。

